

シンポジウム

「現代モンゴルにおける自然×ヒト×鉱山：フィールド科学の挑戦」

【発表プログラム】

13：00～13：10 シンポジウムの開催にあたって（滝口）

13：10～14：20 第一部 テーマ：「鉱山」

Julian Dierkes (Associate Professor and Coordinator, Program on Inner Asia University of British Columbia)

"The Central Role of Resource Policy for Mongolian Development in the Past and Next 10 Years"

西村幹也（NPO 法人北方アジア文化交流センター・しゃが代表）

「タイガの森の『金』ラブソディー」

Dalaibuyan Byambajav（北海道大学大学院文学研究科博士後期課程）

"Gold mining and origins and consequences of social mobilization in Mongolia"

ディスカッション

14：20～14：30 休憩

14：30～15：30 第二部 テーマ：「都市とその近郊のフィールド」

阿部直美子（北海道大学大学院環境科学院博士前期課程）

「年輪年代学から考察する、モンゴル・カラマツ林における森林害虫被害の拡大と再生」

滝口良（北星学園大学 非常勤講師）

「ウランバートル市ゲル地区の環境問題：生活改善と煙害対策を中心に」

小野智郁（北海道大学大学院環境科学院博士後期課程）

「ウランバートル北部における現代牧民による土地利用」

ディスカッション

15：30～15：40 休憩

15：40～16：30 第三部 テーマ：「自然」

宮崎真（北海道大学大学院地球環境科学研究院統合環境科学部門特任助教）

「モンゴル北部永久凍土域のカラマツ林における水文気象、生態、年輪年代学の長期モニタリング」

石川守（北海道大学大学院地球環境科学研究院統合環境科学部門准教授）

「知を共有化する環境リテラシーの表象化と醸成・変貌するモンゴルの自然社会を対象に」

ディスカッション

シンポジウムを終えて **Julian Dierkes**